

# 徳成寺

## 寺ともかわら版

第208号 2024年4月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

大相撲春場所で、110年ぶりに尊富士関が新入幕優勝を

果たしました。14日目の取り組みで靱帯損傷の大けがを負いました。

師匠も休場に理解を示してくれたのですが、休場中の兄弟子の横綱

照ノ富士が様子を見に来てくれたそうです。「この状態では無理だ」と

弱音を吐くと、横綱から返って来たのは「お前ならやれる」でした。続けて

「勝ち負けじゃない。最後まで出る事が大事なんだ。負けてもいい。この好機は

戻って来ないぞ」と促され、立ち上がってみるとなぜか歩けたそうです。尊富士は

「横綱に言われて急にスイッチが入った。『第2の自分』がいるようだった」と振り

返りました。横綱は「俺の9回の優勝より、お前の（前に出続けた）相撲の方が

うれしかった」とほめたたえたのです。誰しも「人生」と言う二度と戻って来ない好機を

頂いています。前に出続ける『第2の自分』を、親鸞は法蔵菩薩と正信偈に記しました。

※1月2月の寺ともサービスで頂いた能登半島地震の基金を全額、真宗大谷派を通じて被災者に送りました。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



## 大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。お彼岸でお世話になったご門徒の皆様ありがとうございました。今年の春分の日は嵐で瀬戸大橋が止まってしまいました。岡山でご法事の予定でしたので、予定通り向かう為に明石海峡大橋を使って迂回したり、宇高国道フェリー（現在は廃線）を使ってみたりと様々な案が出ましたが、結局は予定を変更し開通を待って向かうことにしました。通行止めが予想より早く解除になったので何とかありませんでしたが、この経験を経て香川県の交通インフラは橋無くしては成り立たない事を実感しました。1/1の能登半島地震の2月中頃までは道路が分断され物資や復興が遅れ、陸の孤島になっていると報道がありました。香川県も恐らくそのようになるのではないかと今回の嵐で実感しました。写真は我が家で用意しているレトルトご飯の備蓄の一部です。有事になる前に備えが必要だなと思いましたので、お話しさせていただきました。

